

●●● 広報アンケート調査から ●●● ④

アンケート調査の中に、市民のかたがたから多くの意見や要望が書かれていた。「毎号楽しみにしている」「最近全然届かない」「市民の声を多く載せてほしい」……など。これらの「市民の声」を掲載し、四回にわたって連載してきたアンケート調査のまとめとします。広報委員会では、この調査の結果や意見をさらに細かく分析し、これからの広報紙づくりに生かしていきたいと考えています。

市民の声

広報紙に対するもの

- 少ない紙面をフルに活用して内容も豊富だ。税金が高いといわれているが、少しでも安く出来る方法を考えているのか。(稲生)
- 毎号楽しみにしている。家庭の中にいると広報が一番の頼りです。(大篠)
- 行政広報紙であるので、一般新聞のようなまねはやらない方がよい。例えば随想、詩など趣味的な投稿に紙面をさくのはもったいないと思う。市民に知らせることはもつとあるはずだ。(大篠)
- 一月分をまとめた「市民カレンダー」にしてはどうか。(大篠)
- 広報の枚数が必要以上に多い地域があるようだ。無駄のないように。(大篠)
- 紙の質をもう少し上質にしたなら。(日章)
- マンネリ化しないよう、新しい企画を。(日章)
- 写真を多くしては。(日章)
- ページ数を増やして。(日章)
- 毎号読んでいる。わからなかったことが、広報で良くわかりうれしいこと。(長岡)
- 知人、友人、家族などの写真や名前を見いだしたとき、広報を身近に感じる。地域のめずらしい行事などの記事を見ると、南国市ってずいぶん広いんだあ、と感心したりもします。市民の生活に溶け込んだ広報紙になるよう願っています。(長岡)



親切で、ガラス張りの行政が望まれている……

- 限られたページ数で無理がいくと思いますが、できれば活字をもう少し大きくしてほしい。(長岡)
- 毎月二回発行しているのに、最近全然届かない。(日章)
- 月一回の発行でよいと思う。(長岡)
- 発行後、できれば早急に届けてほしい。(上倉)

記事の内容に対するもの

- 地域の伝説、昔話を連載してほしい。(稲生)
- 建設的な「市民の声」を多く載せるように。(大篠)
- 地域の話題や行事を多く取材してください。(大篠)
- 市役所の機構とその役割についてシリーズで取り扱ってほしい。(大篠)
- 市民の税金がどのように使われているのか、財政難といわれる南国市のお金の行方をもっとわかりやすく知らせしてほしい。(国府)
- 行政を細かくガラス張りに報道し、市民の味方になるべきだ。(岡豊)
- 各地域のかたがたの随筆シリーズの企画はどうでしょう。(長岡)
- 行政の制度や施設の紹介、行政の施策をわかりやすく解説した特集号を年一回は出してほしい。野田
- 市政の柱である同和問題解決のための啓蒙啓発に関する記事を企画すべきだ。(瓶岩)
- 市議会の内容をくわしく。(久礼田)
- 子供のニュース、作品などの欄が一ページくらいあっても。(久礼田)
- 市民の税金がどのように使われているのか、財政難といわれる南国市のお金の行方をもっとわかりやすく知らせしてほしい。(国府)
- 行政を細かくガラス張りに報道し、市民の味方になるべきだ。(岡豊)

より親しみのもてる広報に

4月から紙質を向上

市民登場の記事も多く

内容の改善について

広報委員の討論

- A・堅苦しい広報では市民に好まれる広報にはなれないと思う。だれにでも読まれる広報になるためには、随想や詩などもあつてよいと思う。(委員)
- B・部数の増減については連絡員さんからの連絡がほしい。無駄をなくすには、市民の協力もないと

- ね……。 (事務局)
- C・紙の質は県下で最低。少しでも安くするためだったが、写真などの写りが悪いため、四月から多少良い紙に出来そうだ。(事務局)
- D・マンネリ化……むつかしい問題だが、座談会などを行いながら、市民参加の企画をどしどし取り入れていこう。(委員)
- E・ページ数を増やしても、読まない心配もあり、予算の関係も

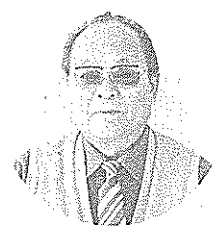
- あつてページ数は現状のままでいきたい。(事務局)
- F・活字の大きさは、紙面の構成に無理がいかないかどうか、早々に検討します。(事務局)
- G・アパートなどで届いていない家庭は、それぞれの部落や町内会の方針もあるので、できるだけ門前解決の道を開くために、地区の連絡員さんにご相談してほしい。(委員)

- H・月二回発行が、大切な行政からのお知らせでもあるので、市民のためにあると思う。(委員)
- I・発行後すぐに届けるよう、職員や連絡員さんのご協力をお願いしたい。(委員)
- J・料理については、新聞やテレビで毎日のように見ることができるので、広報で取り上げなくてもいいのでは。(委員)
- K・「譲って」「譲ります」など

- の「伝言板」のコーナーも、とあるが、金銭問題からむの問題がある。(事務局)
- L・「教育相談余話」がかなり好評だったと聞く。高石文一先生とも相談の上、再登場できれば……。 (事務局)
- M・予算、行政施策、議会など、行政をガラス張りにすることは当然だ。今後担当者の努力がいるだろう。(委員)

生活に溶込む広報を

広報委員長 山本尚一



水、空気が、そして電気のように広報紙が、わたしたち市民の暮らしに溶込んで欲しいと、私は切実に願っています。広報は月2回届いて当たり前で、もし1回でも抜けたら本当に困る、それだけの使命があるのではないのでしょうか。

「広報なんこく」は昭和34年10月創刊、翌年の4月に広報委員会が発足して、その姿勢を市民サイドに置き、昭和48年から毎月1日と15日の2回発行となり、より身近な広報を——と現在に至る。この間、日本広報協会主催の全国コンクール「都市の部」で47年と49年の2度にわたって入賞、常々の市民のご協力のたまものといえましょう。

激しい世の中の移り変りに、いつも揺れ動かされるわたしたちの生活、その中から生じる自治体への願いと、それをどう受け止め、行政面でどう導いてゆくのか、そのパイプ役が広報の重大責務であり、やむことなく追いつめられる課題でもあるのです。

今回のアンケート調査は、大勢の市民から声高らかに、広報のあり方を教えていただいたものと感じ、反省を加えて、市民生活になくしてはならない広報づくりに努める決意をより一層固めました。

92.8%が「毎号届く」とあり、広報を見る(読む)状態も高率を示しています。しかし、全戸配布の広報としては、まだまだ問題が残ります。大切なお知らせが期日を過ぎた頃に届いたり、また届か

なかった例もあり、広報担当者の苦勞が水の泡となることもあるようです。配布にあたってのご苦勞も多いと思いますが、早く、正確に、必要な情報が生活の場に届くためのご協力をお願いします。

広報は新聞やテレビのように、速報、即応はかきませんが、せめて月2回発行によって、行政への関心を高め、理解を深め、生活の周辺からの声に応じたいものです。市民カレンダー、その他お知らせ記事、ニュース、市民の意見、提言など、すべての面に密度の高い広報をお届けする為の方策として実施しているわけです。

広報がその使命を果たすためには、だれにも読んでいただけるだけの魅力が必要です。栄養価の高い食品でも、味つけと調理がよくなければ食欲を失うのと同じです。行政の解説やお知らせにしても、堅苦しさのない記事にすることが肝心であり、市民の参加を誘う行事案内や各種の紹介、文芸欄、漫画、クイズを掲載するなど、限られた紙面にあふれるばかりの願いをこめているつもりです。多種多様、広範囲にわたる市民生活の隅々からの声が、行政に生かされるお手伝いの一役が、広報にもできればと念じています。

今回の調査には、各地区の多数のかたがたからご協力をいただきました。貴重なご意見、ご要望に少しでもお応えできるよう、市当局とともに努力を続ける所存でございます。